

生産技術研究所

| | | | |
|----|-------|-------|---------|
| I | 研究水準 | | 研究 20-2 |
| II | 質の向上度 | | 研究 20-3 |

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、当該研究所では、様々な理工学分野における先導的学術研究を行う一方、科学技術振興費主要5分野の研究開発委託事業（RR2002）等大規模の政策的研究開発事業10件をはじめ、フランス国立科学研究センター（CNRS）との国際共同研究グループ（LIMMS）を設置し共同研究を行うなど、国内産業界との共同研究や海外の研究機関との国際共同研究が活発に実施されている。雑誌論文、会議録を含む研究発表論文数は、教員一名当たり年間平均20件程度であり、平成16年度から平成19年度間の特許出願件数は228件である。研究資金の獲得状況について、平成16年度から平成19年度間の科学研究費補助金の採択数（金額）は、575件（33億7,000万円）であり、科学研究費補助金を含む外部資金の獲得状況は、平成19年度は教員一名当たり2,600万円強であるなど、優れた成果がある。

特に、雑誌論文、会議録を含む研究発表論文数、研究資金の獲得状況等の活発な研究活動とともに、連携研究センター及び寄附部門の設置、グローバル連携研究拠点網の構築等によって、活発な産官学連携研究活動、国際連携研究活動が行われているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、生産技術研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生産技術研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、MEMS技術を用いた一分子観測用チップの開発、ソフトマターダイナミクスに関する研究、将来の水資源予測モデルの開発等の卓越した研究業績がある。社会、経済、文化面では、地球規模での持続可能性の向上を目指した新しい建築生産システムの研究活動、高度道路交通システムに関する研究、水中ならびに海底観測のための自律型海中ロボットの開発等の卓越した研究業績がある。また、平成

16年度から平成19年度間の研究成果に関わる国内外の受賞数は268件であるなど、優れた成果がある。

特に、学術面、および社会、経済、文化面での重要な研究成果と、それに対して与えられた日本学士院賞などの功績表彰とともに、若手研究者の研究支援の取組により若手研究者の活発な研究活動が行われているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、生産技術研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生産技術研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。